

第47回 古地図企画展示

海と陸の「みち」

—江戸時代を旅する—

平成24年(2012)7月14日〔土〕～平成24年9月2日〔日〕

於 二階 特別展示室2

— 出品目録 —



No.5 大坂より松江まで航路図(部分)

慶長9年(1604)、江戸幕府によって、五街道の起点として江戸日本橋が定められました。それ以降、宿場や里程が設けられ、各地の街道が整備されることとなります。また、沿岸航海を中心とする航路の開発も、各地で順次進められます。これら陸と海の「みち」は、大名や武士が利用するほか、商業や交通・通信に関わった人びと、さらには一般庶民の旅に使われることとなります。

あれば便利なのが、今も昔もかわらず、それぞれの「みち」筋における各種の情報です。その一つが、陸の「みち」や海の「みち」を案内し、一望することができる地図であったことは、間違いないでしょう。これらの地図は、一枚刷りの簡単なものから、縮尺などが度外視され、日本列島を収録するために、全長10メートルを超えるものまでが作成され、販売されていました。ただ、長くて大きな地図はコンパクトに折り畳みできることで、懐や袖の中に入るような工夫がなされています。

今回の展覧会では、この「みち」に焦点をあてて、江戸時代に作成された道中図や航路図などを中心に街道筋の情報や、名所の姿を概観します。

《出品目録》

I. 日本図に描かれた「みち」

No.	資料名	作者など	時代	版種	寸法(cm)	備考
1.	大日本国大絵図	石川流宣	正徳2年(1712)	木版筆彩	88.9×170.4	南波
2.	改正日本輿地路程全図	長久保赤水	安永8年(1779)	木版筆彩	83.2×134.3	秋岡
3.	大日本海岸全図	整軒玄魚	嘉永6年(1853)	木版刷彩	50.7×71.4	
					(「蝦夷国」22.8×23.9の付け足り)	秋岡

II. 海の「みち」

No.	資料名	作者など	時代	版種	寸法(cm)	備考
4.	船路絵図屏風		江戸時代中期	手書筆彩	72.8×264.0	
5.	大坂より松江まで航路図		江戸時代中期	手書筆彩	35.0×1791.0	
6.	自東都西国筋 旅中懐宝	結城甘泉	嘉永5年(1852)	木版刷彩	14.6×7.9	
					(全長731.0)	南波
7.	西国内海名所一覧	五雲亭貞秀	慶応元年(1865)	木版刷彩	35.2×141.6	
8.	勢海一覧	天香堂・擔柴小夫	文久3年(1863)	木版	53.5×77.4	秋岡
9.	八箇州船路之図	一貫堂	文久3年(1863)	木版刷彩	43.1×68.4	秋岡
10.	皇国舟程全図	疋田棟隆	慶応4年(1868)	手書筆彩	37.3×28.3	

(1) 元 58面 (2) 亨 52面 (3) 利 50面 (4) 貞 52面

